

マネジメントコース研修生のつづやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

月日が経つのは早いもので、令和3年4月から始まった自治大学校での生活も残り2か月余りを残すのみとなりました(1月に執筆中)。

派遣時には、自治大学校の実務に携わることについて不安もありましたが、4月からの生活は、自治大学校での実務も研修も私生活も、他では得がたい経験ばかりで、自治大学校に来て「とても良かった」と思う今日この頃です。

○仕事○

5月から9月初旬までは基本法制研修A第6部及び第1部課程第136期を受講し、その後、自治大学校の実務に戻り、現在は、自治大学校で使用する演習用テキストの作成等に携わっています。

テキストの作成に当たっては、各自治体で行っている取組内容について調べ、時には実際に自治体の担当者の方からお話を伺ったりし、単に仕事というだけでなく、同時に、自分の身になる経験を積ませていただいています。

作成作業も佳境を迎えています。完成したテキストが、参加していただいた研修生の皆様にとって、できる限り有意義なものとなるよう、また、研修に参加した目的達成の一助となれるよう、自治大学校の一員として、引き続き頑張っていきたいと思っております。

○寮生活等○

コロナ禍により日々注意しつつの生活ではありますが、それでも、研修生同士、同じ屋根の下で何か月も一緒に生活しているだけで自然と仲良くなるもので、特別研修生と一緒に研修を受けた方々とは、早い時期から遠慮の要らない関係となれた(気がします)。

全国各地で、同じ公務員の仲間が頑張っていることを思うと、こちらも励まされますし、また、助け合える絆を得たことは、言うまでもなく大切な財産です。

残り僅かでこのような貴重な体験も終わってしまいますが、この「自治大学校への派遣」という機会を最大限生かせるような毎日を送りたいと思っております。(T. T)

